

3月4回(3月20日～3月26日)商品検査実績

●微生物検査 244 検体

検査の結果特に問題はありませんでした。

●理化学検査 176 検体

食品添加物検査	30 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
残留農薬検査	今週は実施しておりません。	
簡易農薬検査	12 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
P C R 検査	畜種判別検査	今週は実施しておりません。
	GMO検査	今週は実施しておりません。
	米のDNA異種米判定	今週は実施しておりません。
	コシヒカリ品種判定	今週は実施しておりません。
米鮮度判定	2 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
卵鮮度判定	100 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
アレルゲン検査	3月3回の検査において1検体で乳が偽陽性となったため、取引先での調査を行なった結果、製造ラインで乳を原料とした製品の製造はありませんでした。また、検査キットの特性上、粘度が高い検体では偽陽性となる場合があり、今回の検体も粘度が高かったため、偽陽性となったと考えられ、商品自体に問題はないと判断しました。	
ヒスタミン検査	今週は実施しておりません。	
アフラトキシン(カビ毒)	今週は実施しておりません。	
クドア(養殖ヒラメ寄生虫)	今週は実施しておりません。	
放射性物質検査(スペクトロメータ※①)	12体(米2検体、鶏卵5検体、野菜1検体、果物4検体)実施しました。全て検出限界値(約20Bq/kg)以下となりました。	
放射性物質検査(サーベイメータ※②)	20検体(野菜8検体、果物7検体、きのこ5検体)実施しました。バックグラウンドとの差異が3※③kcps(キロ・カウント・パー・セカンド)以内となりました。	

- ・ヒスタミン検査=ヒスタミンによる食中毒は、アレルギー様食中毒の一つであり、鮮度の低下したマグロやカツオ、サバなどの赤身魚やその加工品が原因となることが多いため、検査でヒスタミンの濃度を測定します。
- ・アフラトキシン=アスペルギルス属の一部のカビが産生するカビ毒で肝臓がんの原因の一つと考えられています。アフラトキシンが作られる最適条件は、温度30℃前後、湿度95%以上であるため、高温多湿の熱帯地方等が最も適しています。輸入食品の安全性に関わるため、日本では、輸入時に行う抜き取りのカビ毒検査やカビそのものが生育していないか外見上の検査を実施しています。なお、日本国内で、食品にアフラトキシン汚染が起きる可能性は低いものと考えられています。

※①NaI シンチレーションスペクトロメータ(遮蔽体付検査機器で核種を特定できるもの:ヨウ素 131、セシウム 134、セシウム 137 を測定)

※②NaI シンチレーションサーベイメータ(遮蔽体無し<sup>しよへいたい</sup>の持ち運びできる機器:ガンマ線総量を測定)

※③kcps(キロ・カウント・パー・セカンド):1秒間に対象となるものから何回放射性物質が放出されているか測定するものです。奈良県行政と同様にバックグラウンド(放射線測定の際の測定対象以外からの放射線で宇宙線や天然の放射性物質に起因する)との差異を3以内としました。



組合員さん VOICE

組合員さんの

## 想いにこたえて

みなさんから寄せられた声を商品・運用にいかす取り組みをしています。

くるみ餅（ゆべし切りおとし）や、お徳用切落しゆべし（くるみ）の案内はありますが、切落してはでない商品も案内してほしい。

## 実現しました

リクエストをいただきありがとうございます。ご希望をいただきました切落してはでない商品として4月3回企画で「CO・OP くるみゆべし4個」を案内できることになりました。CO・OP くるみゆべしは、甘じょっぱい味付けのもちと、くるみの香ばしい風味とコリコリとした食感の商品です。また、個包装されていますので、お好きな時に食べやすくなっています。この機会にぜひお試しください。



## 今月のお知らせ

# 安心だより



## お店の衛生点検

ならコープ品質保証部では、定期的に店舗作業場の衛生状態や作業状況を確認し、改善を行っています。

### 実施した結果（農産部門の場合）

- よかった点  
包丁、まな板は衛生的な状態に保たれておりました。
- 改善が必要だった点  
手洗い後に使用するアルコールが残り少なくなっていました。手洗い後、常にアルコール殺菌を行えるよう、定期的に補充することとしました。



各部門を点検した結果、全体的に衛生的な環境で作業されておりましたが、いくつかの事項で改善を行いました。今後も作業環境の改善を進めてまいります。



## 商品検査レポート 2月に行った商品検査の結果をご案内します。

毎月の検査結果はHPにも記載しています。▶<http://www.naracoop.or.jp/goods/letter/kensadayori.html>

微生物検査	検査数 922	特に問題となる商品はありませんでした。
-------	------------	---------------------

理化学検査	検査数 552	主な検査項目	食品添加物 186	簡易農薬 50	畜種判定 6	残留農薬 (外部検査機関へ依頼) 32	精米品種判定 (外部検査機関へ依頼) 8	カビ毒 4	検査の結果、いずれも問題ありませんでした。
-------	------------	--------	--------------	------------	-----------	---------------------------	----------------------------	----------	-----------------------

放射性物質検査 (NaIシンチレーションスペクトロメータ※①)	検査数 68	米 15	野菜 12	果物 15	牛乳 12	鶏卵 10	水産 1	冷蔵日記 2	飲料 1	検査の結果、全て検出限界値(20Bq/kg)以下でした。
------------------------------------	-----------	---------	----------	----------	----------	----------	---------	-----------	---------	------------------------------

放射性物質検査 (NaIシンチレーションサーベイメータ※②)	検査数 60	野菜 19	果物 15	きのこ 26	検査の結果、全てバックグラウンドとの差異が ※③3kcps(キロ・カウント・パー・セカンド) 以内となりました。					
-----------------------------------	-----------	----------	----------	-----------	--	--	--	--	--	--

※①NaI(エヌエーアイ)シンチレーションスペクトロメータ(運搬体(しゃへいたい)付検出器で検種を特定できるもの:ヨウ素131、セシウム134、セシウム137を測定)

※②NaIシンチレーションサーベイメータ(運搬体無し持ち運びできる機器:ガンマ線総量を測定)

※③kcps(キロ・カウント・パー・セカンド):1秒間に対象となるものから何

回放射性物質が放出されているか測定するものです。奈良県行政と同様にバックグラウンド(放射線測定の標の測定対象以外からの放射線宇宙線や天然の放射性物質に起因する)との差異を3以内としました。NaIシンチレーションサーベイメータではガンマ線総量を測定し、より多くの検体を測定し、検出が疑われる場合は、NaIシンチレーションスペクトロメータで確認検査を行うこととしています。

